

第4回地域生活移行推進民間提案事業評価委員会の結果（概要）

日時 令和8年3月3日（火）9：00～12：00

場所 神奈川県庁東庁舎11階113会議室

議題1 会議の公開、非公開について

議題のうち、提案法人によるプレゼンテーション及び質疑応答については公開とし、提案事業の評価等については非公開とすることを決定。

議題2 令和8年度地域生活移行推進民間提案事業の評価について

(1) 提案法人によるプレゼンテーション

社会福祉法人唐池学園（以下「唐池学園」）が、提案事業についてプレゼンテーションを実施。

【質疑応答】

（内藤委員）

県央地域で積極的にいろいろと活動されてありがたい。地域移行がなかなか進まないことについての一番の原因はどのようにお考えか。

（唐池学園）

仮説として、施設側の要因とご本人の不安の部分やご家族の考えなどが考えられる。

経験からすると、すぐに結論がでなくても、3回、4回とGHの体験をやりたいと言っている方が、実際にGHに行ってみたら施設の生活と違うと思う。そこをもう一歩推し進める力が大切で、どのように施設側が対応し、施設がかかえている悩みを解決していくか。また、GH側もご家族の安心や経営基盤を考えると、どうゆう風に支える仕組みを作っていくかを考える必要があると感じている。

（黒須副委員長）

生活体験に参加した方で高齢の方の場合は、介護保険事業の選択肢もある。障害でなく介護保険に切り替えるといった流れもあったりするが、それについて検討されているか。

（唐池学園）

特別な検討はしていないが、入所施設やGHを継続的に使っている方は、無理に介護保険に切り替える必要はないと考える。本人が安心して生活できるのが一番だと思う。

今は、高齢の方も障害のサービスを使っていることが多い。

(黒須副委員長)

一方で、特養も空きもできている状況で、障害がある方も受け入れるという流れもあるので、それも選択肢として考えることも地域移行を進めるアプローチになるのではないかと。

(唐池学園)

住宅型有料老人ホームのスタイルかと思う。医療や看護、介護が外部のサービスと一体となって運営しており、実際に暮らしている方のご家族が喜んでいるケースもある。

また、地域移行した事例の中に、施設では無断外泊を繰り返す方がいたが、GHに来て、定期的にヘルパーさんと外出することで安定している様子を見ると、施設での生活が限界で抱えているストレスもあるのでないかと感じている。GHの快適さもあると考える。

(在原委員長)

GHへ移られた4名の方は、住んでいた施設を運営する法人のGHへ移られたのか。

(唐池学園)

3名はお見込みのとおりで、1名は違う法人である。3名は他の法人のGHも体験したうえでご本人が選ばれた。しっかりとご本人が住みたいと考えている場所で選ばれている。

(在原委員長)

自分の法人のGHへという意識はないのか。

(唐池学園)

顔見知りの職員がワンステップで支援できるという意味では、ご本人にとっても安心感はあると思う。

(富田委員)

73歳の男性は、障害の度合いはどうか。

(唐池学園)

A1くらいで重い方である。車いすは使っておらず、食事の介助は必要である一方、着替えは自立しており、介護というよりは見守りを行っている。

(黒須副委員長)

「明らかにしたいこと」は、同感するところがある。入所施設はセーフティネットだと思う。施設か地域かという選択だけでなく、一人の人間が地域で安心して暮らせるためにどのようなことができるかを考える中で、入所施設は地域の生活を支えていくことがこれからの役割だと

思う。あと、地域移行加算などがあるが、もっとドラスティックに、報酬面でも反映されるような仕組みがあってもいいのではないかと思う。

(在原委員長)

生活体験事業に参加してくださった8名の方は、7年度単年か。

(唐池学園)

6年度も含まれている。今後も4人くらいの方の参加が見込まれている。

(在原委員長)

生活体験事業に参加された方の追跡調査で、あまり体験事業に出したがらないご家族や入所施設があるとのことだが、追跡調査をしてみて、体験を行うことでよりチャレンジしてみようなどというような効果があると思うが、そういった波及効果のようなものを打ち出していくと今後につながるのではないか。

仮説としては、入所施設単体の法人だとハードルが高いと感じているかと思う。

(唐池学園)

そのとおりで、なかなかやりづらいのではないかと思う。

複合的な法人は、職員が様々なポジションで勤務をするので幅が持てるのではないか。

(在原委員長)

入所施設単体の法人ともつながりを作っていくことも考えているか。

(唐池学園)

それぞれが抱えている難しさや悩みを聞いていきながら、協議会の中で対応方針をまとめていきたい。

社会福祉法人藤沢育成会（以下「藤沢育成会」）が、提案事業についてプレゼンテーションを実施。

【質疑応答】

(富田委員)

来年度から行う「当事者性」と「参画」というテーマはいいと思う。ぜひみなさんから意見を聞いていただきたい。

「利用者サポーター（仮）」プロジェクトはどういったものか。

(藤沢育成会)

入所施設の利用者さんがどういった生活をしているか、どんな方がいるかということ地域の方もなかなかご存じでないと思われるため、イベントを通じて交流しながら、事業運営へのご理解を頂ける機会を作りたいと考えている。

また、直接的に入所施設を紹介するのではなく、地域生活課題の防災や孤独などの幅広い共通のテーマを一緒に考える取組をしていきたい。

(黒須副委員長)

今期の成果①の地域生活移行の実績の中で、生活介護事業所移行者という標記があるが、同一法人内の他の事業所に移られたのか。

(藤沢育成会)

ほかの法人も含まれており、ご本人が希望された事業所に移られている。

そのかわり、半数以上の方が出られるので、在宅の方を生活介護で受け入れている。

メリットとしては、重度の方も受け入れることができると考えている。

(在原委員長)

経験・体験プロジェクトで、GHでの生活体験だけでなく空き家やホテルなどを活用した宿泊体験とあり、GHに限らず広くということだと思うが、同行する職員の方はどうするのか。ヘルパーが付き添いをするのか。

(藤沢育成会)

まだ、具体的でないが、そのような活用もあると思っている。

(在原委員長)

体験の時にあわせてヘルパーの支給決定を受けることは可能なのか。

(藤沢育成会)

市町と相談しながら積極的に入所施設の利用者さんの土日のヘルパー利用をしつつ、その延長線上にそういった取組ができるかを協議していく。

また、GHでも一人暮らしの取組をしており、居住支援連携の不動産業者ともやりとりをしているため、空き家等の不動産の物件情報が入ってくる。

様々な関係先と相互に連携を図ることで、GHに住んでいる方はその先に一人暮らしを目指すことができ、入所施設の方はGHへ行くことができるようになる。

まずはGHが中心だが、住む場所はそれがすべてではないので幅広くやっていければと思う。

(在原委員長)

アンケートのほうで強調したいことはあるか。

(藤沢育成会)

アンケートでまずは実績と基本的な調査を行ってから、現状を共有したところである。職員体制が各事業所の課題として挙がっていたため、退職、入職の状況などを連絡会の方々と共有しながら、アンケートについても定期的実施していきたいと考える。

(在原委員長)

アンケートでは、湘南東部圏域の5つの入所施設の状況を聞いたということによいか。

(藤沢育成会)

お見込みのとおりである。

施設の対象が知的障害と身体障害と違っており施設によって課題が異なるため、それぞれ共通した課題を見出しながらやっていきたい。

地域生活移行の考え方も施設によって異なるため、いっぺんに取り組むことはなかなか難しいと感じている。

(在原委員長)

湘南東部では、日中活動は外に行くという文化があるとのことだったが、5つの入所施設においても日中活動は外でされているのか。

(藤沢育成会)

体調不良の方以外は、基本的には朝から夕方まで他の事業所に行っている。

従前から職住分離の支援を推奨している。

(内藤委員)

日中活動と生活が別であるのはいいことだと思う。

(黒須副委員長)

感想的なことになるが、この事業で連絡調整や人材育成に関わるスタッフが雇用できるかという部分が大事だと思う。地域か施設という選択だけでなく、未来に向けた支援のあり方を考えることが支援全体をよくするきっかけになるので、引き続き頑張ってください。

(在原委員長)

研修会の取組はとてもよいと思った。

また、ご本人の生活のイメージ作りを丁寧に当事者参画で行っていることが、一足飛びに地域生活移行にするだけでなく、その前の土台づくりを丁寧にやっている取組と感じた。

来年度には本格展開すると思うが、ぜひ4つのプロジェクトで成果を出していただきたい。

(富田委員)

当事者参画では、どんな当事者の方がいたのか。その施設にいる方だけか。

(藤沢育成会)

湘南あおぞらに入所されている方や、法人内の日中介護、生活介護を利用されている方、他の施設の利用者さんなど、4つくらいの施設の方とその職員が参加した。

グループごとに分かれて、皆さんに自分の理想の部屋を作っていた。

(富田委員)

講師はどなたか。

(藤沢育成会)

利用者さんに講師をしていただいて、希望する生活を発表してもらった。そして、それに対する支援をどのようにやっていくのかを職員が一生懸命考えるという効果も狙っている。

ポイントとしては、あえて利用者さんの施設の職員はパートナーとせずに、ご本人の意見を言いやすい環境にするよう心掛けた。

議題3(2) 採点等

提案法人によるプレゼンテーションと質疑応答を踏まえて、提案事業の採点等を実施。

(以上)